

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2275400196		
法人名	社会福祉法人島田福祉の杜		
事業所名	グループホームあすか		
所在地	静岡県島田市中河町326番地の1		
自己評価作成日	平成23年8月22日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区中町24-2 若杉ビル2階
訪問調査日	平成23年9月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

島田市の中心地(市街地)という立地条件を活かして、地域との交流に主眼を置いた行事に力を入れています。また、特別養護老人ホーム等との併設であるため、嘱託医及び看護師による医療的ケアを充実させています。そして、必要に応じて実施されるターミナルケアでは、ご利用者ご本人とご家族の意向を第一に心を込めて対応しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者に対して優しく声掛けをし、思いを引き出す努力をしています。現状に甘んじることなく工夫を重ね、新しい事にチャレンジする等積極的であり、今後に取り組む意欲が感じられます。課題が生じた時も、家族に協力を求めたり、機関に相談したりする等、幅広く解決策を吟味し、共に居心地の良い事業所にしようとする姿勢が見られます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を職員室に掲示し、共有を図っている。週1回朝礼で復唱している。	経営母体の理念は、入社時に説明を受ける。理念に基づいた目標を、事業所独自で掲げ、具体的なケアについて話し合い、目標達成につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域参加の防災訓練を行っている。施設の祭りに近隣住民を招いたり、地域の川ざらいに職員が参加している。	防災訓練やあすか祭に、地域の自治会の人たちも参加している。福祉介護講座を行い、子育て支援「あすかクラブ」を開催している。幅広く地域の人たちが事業所に足を運んでいる。	子育て支援「あすかクラブ」を通じて若いお父さん、お母さん、子供達が、おじいさん、おばあさんを知る機会が作られ、喜ばれています。ますますの広がりを楽しみにしています。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	福祉介護講座を行っている。子育て支援「あすかクラブ」を行っている。広報誌「あすかの風」の発行。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族会と共同開催しており、家族の意見を取り入れやすしている。	参加者は家族会、行政、地域包括支援センター、民生委員である。お知らせや報告が主である。家族会と同時開催をしている。	会議での質問、意見、要望を受け、どのような課題が出たか、又どのように活かされているかを継続的に検討し、記録することを望みます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者には家族会に参加していただいている。	市担当者が、運営推進会議に出席しているので、事業所の実状を積極的に伝えている。協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	やむを得ず施錠する場合も必要最小限にとどめている。ベッド四点柵について観察、協議を続け、解除のタイミングを図っている。	勉強会を実施し、職員の共通認識を図っている。介護の工夫、内容、方針を文書化し、状況を把握している。やむを得ず拘束をする場合は、家族に同意を得た上「経過観察日誌」に記録し、報告をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学ぶ機会は少ないが、小さなケガも早期発見に努めたり、虐待がないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会が無く、あまり理解できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧な説明を心掛けている。 質疑や意見交換の時間を十分とるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年2回開催している。 日頃から職員と利用者家族が人間関係を築けるよう心掛けている。	利用者からは日常の会話の中で、家族からは、運営推進会議、家族会、面会時の相談、「ふれあい新聞」の送付、電話で状況報告の時、要望を聞けるよう工夫している。意見は検討され運営に反映している。	家族との良好な関係を、今後も築かれていくことを望みます。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度、ユニットの会議を行っており、運営会議や代表者会議での報告をしている。	ユニット会議で、利用者との関係を重視した意見や気付きを聞くよう心がけている。職員の意見や要望を把握し、自己評価も実施している。職場環境の向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価を行い、賞与の算定材料としている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1度、施設内研修を開いている。 外部研修を随時紹介しており、研修後に報告したり、資料を配ったりしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設外研修への参加を通して交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	介護相談課の協力を得て本人や家族と話し合う時間を十分取るよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望に耳を傾け、不安も取り除くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の意向をよく聞いたうえで、検討する余地を残している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人間関係を築くことを心掛け、コミュニケーションが図れるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話連絡や広報誌等で生活の様子を伝えるようにしている。 家族と職員が人間関係を築くよう心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人の面会時には居室でゆったり過ごせるように心掛けている。 時には馴染みの場所に行けるよう、外出支援を行っている。	今までの環境を大切に支援している。家族の協力で外出している。友人知人の訪問もあり継続的な交流を支えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話が広がるよう、テーブルの座席を工夫したり、ソファを置いてくつろいだ雰囲気を作るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	GHを退所し、併設する特養に入所した方を職員や利用者が面会できるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	人間関係を深め、利用者が思いを言いやすい環境づくりに心掛けている。 職員同士の連絡や話し合いを持ち、希望や意見を把握、共有できるようにしている。	一緒に話をしたり、行動したりする中で、利用者の言葉や表情から真意を汲み取っている。暮らしの希望や思いを家族と共有出来るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の情報収集に心掛けている。 入所後もアセスメントを続けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃からコミュニケーションを取りながらも観察を行い、変化があれば、リーダーに報告し、連絡やノートの活用により、情報を共有出来るようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーや看護師との連絡を密にしている。 本人や家族の意向を優先するようにしている。	関係職員で話し合い、本人家族の意向を反映した介護計画を作成している。暮らしに変化が生じた場合は、見直しがされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や連絡ノートを活用し、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービスに参加する等、個々に応じた支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護相談員の訪問を行っている。 運営推進会議に民生委員が参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の意見を優先している。 定期的に嘱託医の回診も行われる。	かかりつけ医への受診は、家族が対応し情報を共有している。定期的に、事業所の嘱託医の回診がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師への迅速な連絡を行っている。 看護師からの指示を共有出来るよう、介護記録やノートを活用している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	相談員や看護師が訪問している。 職員も面会に出向き、情報の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族との話し合いを持ち、意向を優先するようにしている。	入所時に「意志確認書」を作成している。状況が変化した時は、本人家族、医療担当者と話し合いを持っている。終末期には、本人家族の意思を尊重した対応が出来るよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修会や救急救命講座を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルを作成し、周知に努めている。 年1回避難訓練を行っている。	避難訓練は、災害対策マニュアルにより、地域の方の協力を得て行われている。利用者避難の時に首に掛けるネームプレートが、部屋の入り口にかけられている。そのネームプレートには、徒歩で避難可能、車椅子で避難等が書かれ誰でも協力できるように工夫されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉遣いで話すよう心掛けている。	人格を尊重し、自己決定がし易いさりげない言葉かけをしている。情報収集や、外部との情報連携には、守秘義務について確認をとる取り組みがなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意向を確認したり、選択できる機会を持たせたりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	まず声を掛け、本人の意向を確認している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎週理容師が訪問している。 個々に合わせて整容の支援や衣類の選択が出来るようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お米とぎ、味噌汁やおやつ作り等、出来る範囲で行っている。 季節感のある食事やおやつを工夫している。	毎日作っている味噌汁の具やおやつを、皆で相談をして宅配で取り寄せている。食事作りや後片付けは、出来る人が職員と一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分の摂取量を記録し、変化があれば栄養士や看護師に相談している。 月に1度体重測定を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個々に応じた口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、リハビリパンツやパットの使用が必要最小限になるよう、心掛けている。	一人ひとりの排泄リズム(排尿チェック表)や仕草に合わせ、トイレ誘導をしている。リハビリパンツやパットの使用量は減っており、自立に向けた支援となっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動と共に繊維質の豊富な食品を提供するよう心掛けている。 水分摂取量を増やしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴回数はなるべく本人の希望に沿うよう努力しているが、曜日、時間帯は職員本位になっている。	一人ひとりの状態に沿った入浴方法にて入浴している。リフトでの入浴では、音楽を流し、リラックスできる状態で支援している。	職員ローテーションを工夫し、個々に沿った入浴支援が出来ることを望みます。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に適度な運動を行ったり、睡眠導入時に静かなBGMをかけたりするなどの支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を基に確認と理解に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事への参加、趣味活動を個々に応じて行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日課に散歩を取り入れている。 家族に働きかけ、外出の機会を設けたり、図書館やデパートに職員が同行したりしている。	中庭や事業所周辺への外出は日課として実施している。本人が普段行けない希望の場所も家族、事業所の働きかけで外出できている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	デパートやスーパーへの外出時に買物支援を行っている。 普段は職員が管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	併設館内での公衆電話を利用出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある掲示物を利用者と共に作っている。 フロアーに花を飾ったり、中庭で花や野菜を栽培している。	共用の場所には利用者が作った作品や季節の花などを飾り、居心地良く過ごせる工夫をしている。和室は心安らぐ場所として利用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	部屋で一人で過ごす時間を設けたり、フロアーにソファを置いてくつろげるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や調度品、思い出の写真や本人の作品を置いていただいている。	本人の意向で家具や寝具、思いが込められた品々が持ち込まれ、個性のある居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要を思われる箇所には手すりを設置している。		